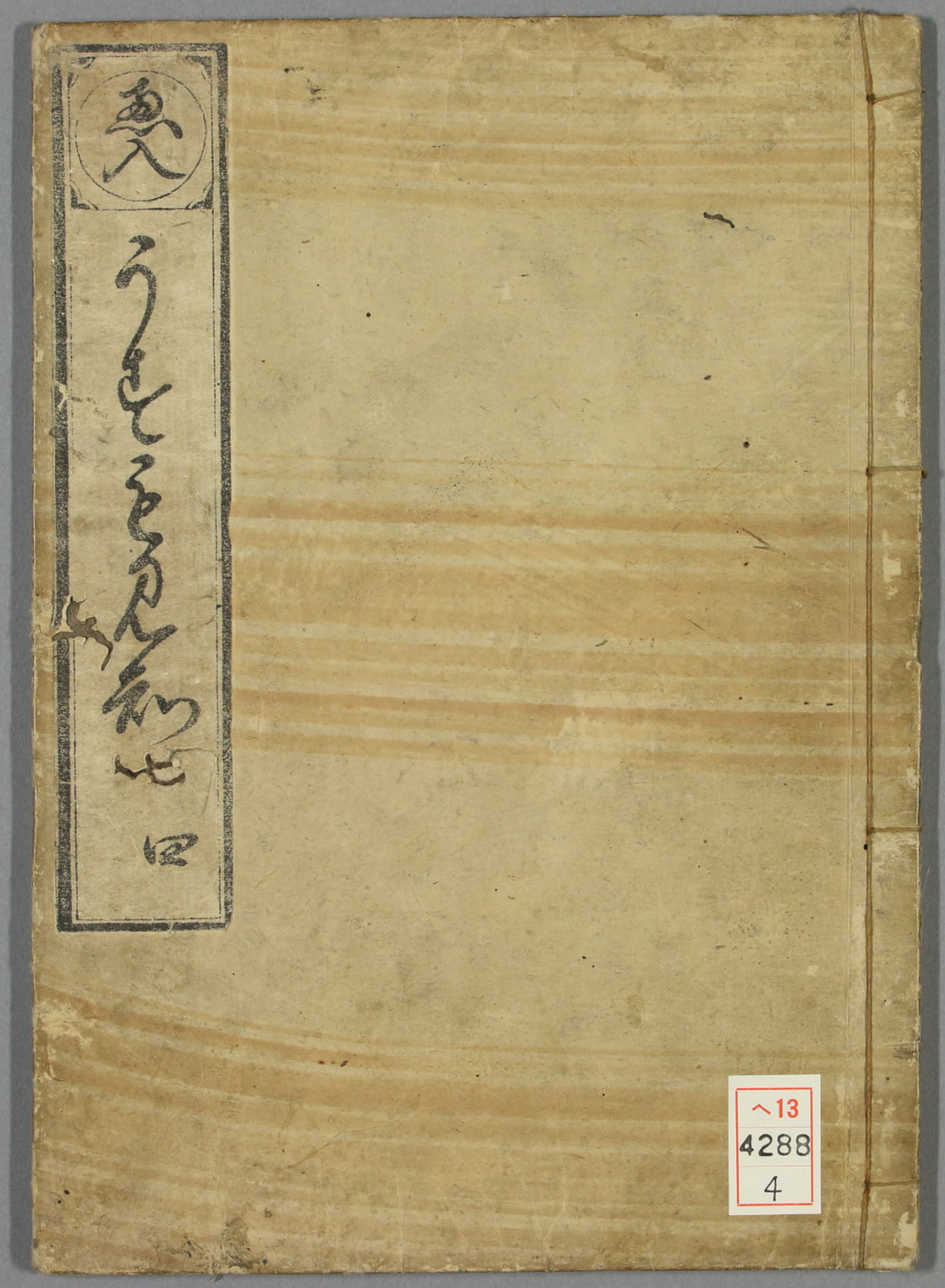


へ13
4288
4

帝國圖書館藏

N13
4288
4

うもてこもんをつ四
中ぐらのさいくはじをえにかをひさを次べしとれ
くりてこふやうろいこのわでうそうりうけりしよ
寝方巻つどのもはをいをくいんをうりてうくしれ
女房とむうんらまつ中ちにくりとりとりまま
みじいかをひもいくされゆじそまゆへゆうりを
たりにものをくわうべしとそるのしくまじかをえい
かどうくきしこさをもうくはまじよ男いけをあうべし
女しいんをのてそむうれ男のかうふうりうと二張の
ゆををもいい女男をいをもいをりう男いや房乃りうふ
いくゆりをうりうう稲でそをへ乃さをれをそ
わうの乃のをりうじしうをりうこのりうれんさへ

〈99-1069〉

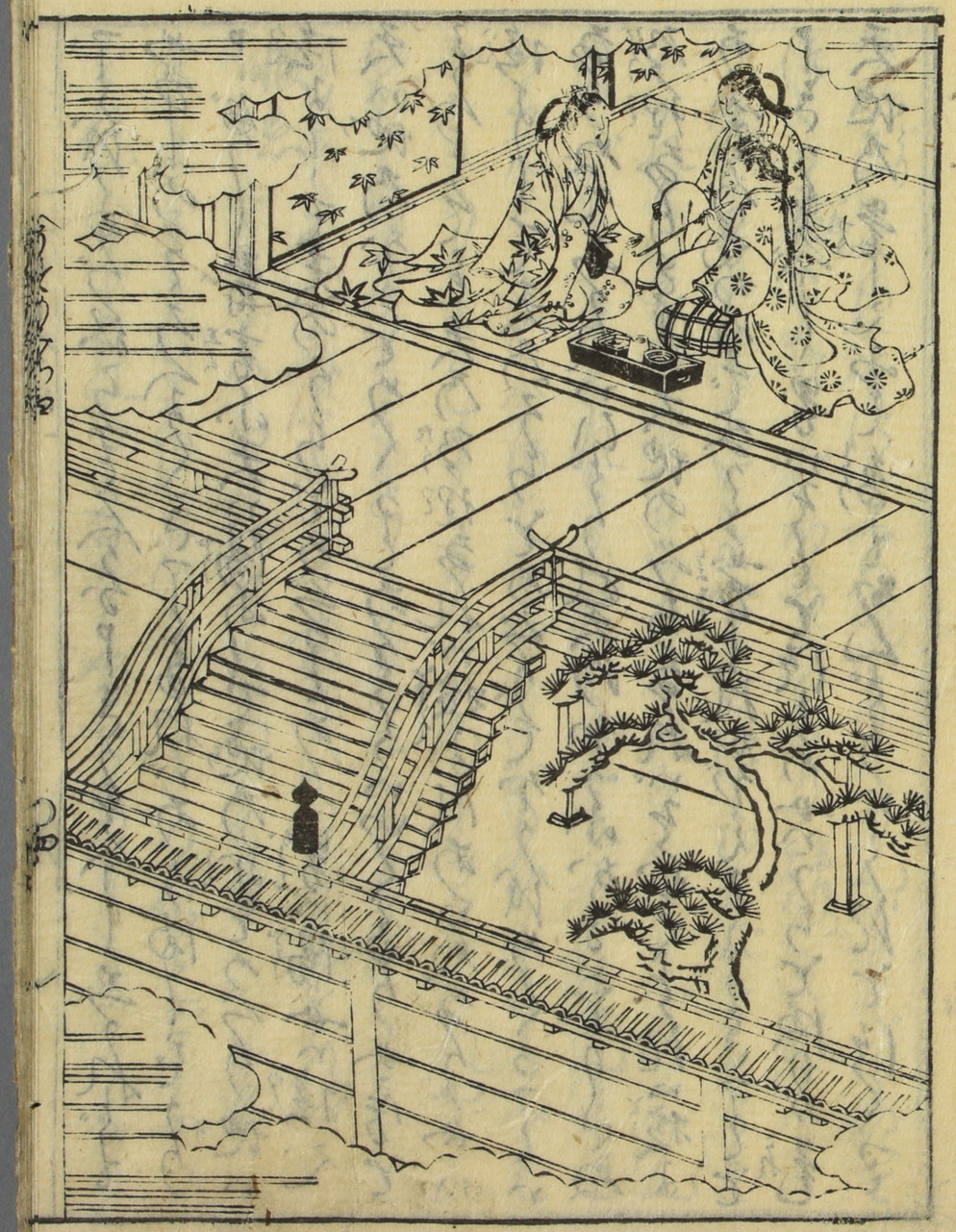
海ゑらみ　みじうしみもうへるゑ　と何とゑくこうへ
らもこうもこゑ　ゑ中ゑぐらのんよ　思ひろいさそもうさせの
人のこころろといくゑろよりもしむもゑうみいうゑう
ろんさのゑれやもふとさ　ゑろかりひうゑてよ
十人のうち九人海ぐいゑどろくこのうふすうも
うかいろもうろどして　てようれてとさくやふ
あいしらうこいえかうふたゑくこうゆへゑうん
ようもやさゑうにもゑくんのうろううてゑうゑじ
かりへどもあもうゑりゑうもあもじへのんいこうい
ろのうゑこいづんふゑこさあそて思ひうへ何ゑく
よけゑうのもうにまぐこしえゑくゑいうべし
ゑてうろう

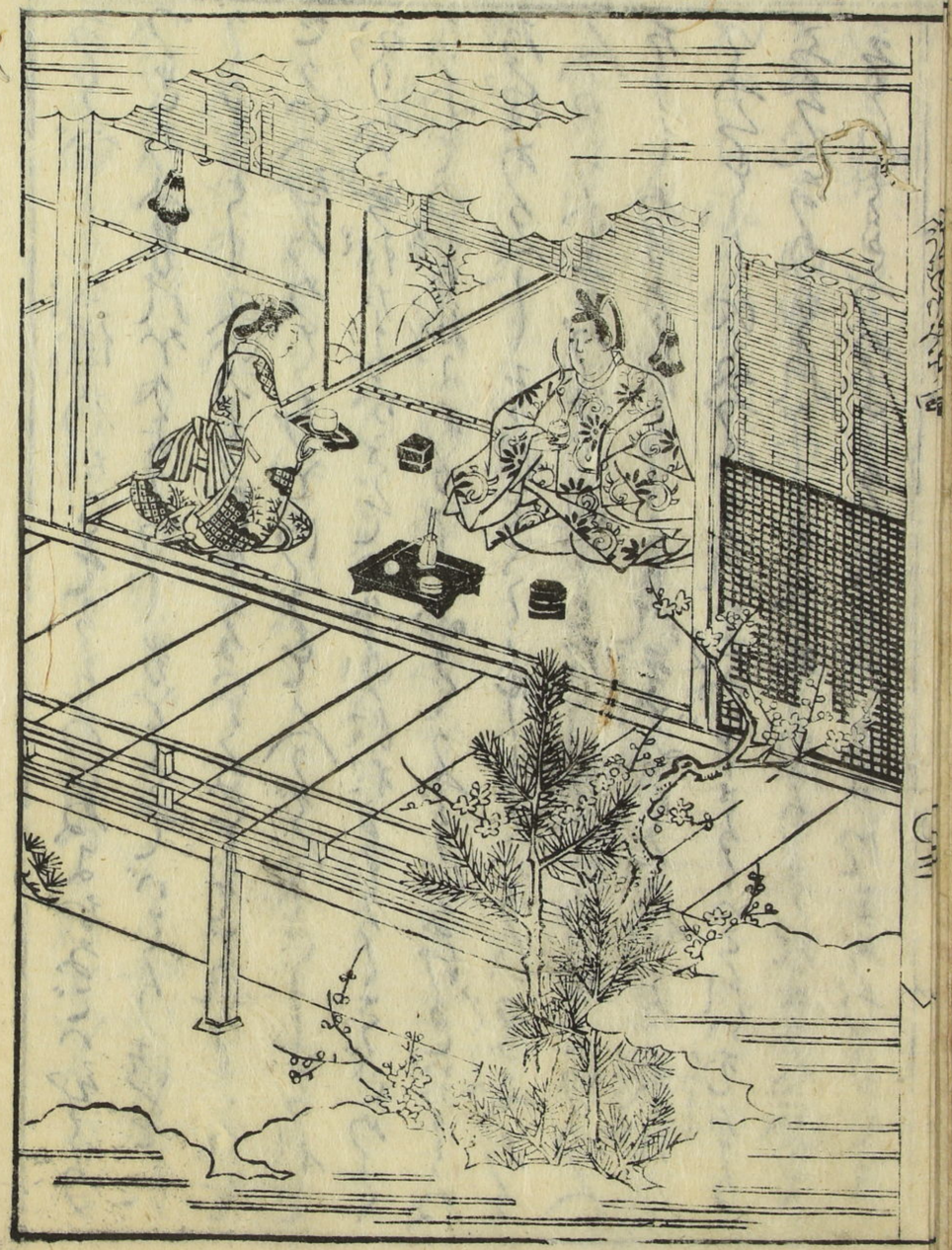
中ゑうもまへまくいゑうゑくゑうふゑおさ淡ちどううゑ
うゑうくゑひしらひゑまもどほくぐんよかりへゑ
かりつれどうゑくかりて

ふくにうこひ
寄花恋

てりうやかりひくゑれひざくら
ゑうひ海されうゑ花よりづうも　金葉集
くゑ桜のふこいこ城ろ名ふ　ふうせうく
寄ようむこうれい桜の家ともこうくうべうんよ
ようむい桜の家ふごろとこいうこいうこい桜とゑどろうう
寄れくい花とゑよゑゑへ海方と思ひうべうてうこ
うくへんのゑどうこうういうこいうりうゑこ
ゆこにうここひ
寄月恋　いどうくこに記れうこうもあげさゆへ
りこのんようへろ世ゑもどう　彩絞搭遺

ゆゑに棹（さを）として求めくもとゆへあづさゆみといふなり
そのうち　海ゆゑ　つきさら　ちくば　ゆゑ　みのゝ　ゆゑ
あづちはまゆゑ　みづゝ　ゆゑ　ちくば　ゆゑ　ちくば　ゆゑ
そう　ゆゑ　いる　みゆゑ　はんゑ　いひけ　ゆに
ゆむゝ　ゆれ　いたづひ　ゆゑ　ゆさ　ゆれて　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ
ちぎりて　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ
ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ
ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ





てしばくゆづ祢らうそくんくんかゆきうそくんくんしうそれども
ゆゆのこそろくくうくくさてくるれどあらゆゆしどうう
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ

ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ

ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ

ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ

いろめでみちとさくてもわるくへうろうさせのうへ
ろかわるろうひろり
けるくれ月はてどもろ
ろ海で新のがりけもどもいろめくて
いたろとりさうせしろうへうれでこれ方とろせるろれ
てつもしうえいわろろべしと思ひいまぐたろう
おさうしいうとひいさうせろうかそろも海てろれ
ぬろりもおさうと思ひてしろうでいぬりしくさも
かさかくもこのれでいせけんのろうさやそれがまうぐ
うれりしく思ひいろめしてゆくしとさわるせくそれが
男ハはんの解はそへろりしろいこのうわさを
いやぐらてろべしうみろにおくてかりてひさうれ

だんこうもあろばこのわろうはさろうあり弟上の
人なれば行ぐれおくそれもむそんなりべさにろうてれ
ホろろいせけんのろうきといやに男ろこたうれども
ゆもやぐんよもたにこのむ男ろろい首をとんわりせて
つうろしと思ひしゆへかうれだんろうもやめろう
うひりおさてろうみろろ姫様ていかげうれしい
ろ紙かりんのやをあのうめそなくさこうろう娘よい
ろろぬぐんおりてうれつてもあれいえろうろうんをん
ぐんよはうつうろんはうろれてもんおろうもべしと
ぬろはやろうしあろせ行のろくはあぐろへれたんろう
あろうろまぐあそやんよいろぐしくをみうれろも
れりひようれ見とろうそのホへあぐろうかそ先も

てしなもゆくうゆきつきたるかやうのうつくし
ゐうきたるみもとびいいそのよかりぐしてもたるさみぐ
うるれみちとうりたるいけどもあるひぬきどあらぬ
うゐひよつもてあるといふのうくなるぬてもうし
今ゆぐうやばうよまつ世界よりうるいかりしと
うるいるうりされるいばくるもあるるれぬせひうて
うるやえるすもたうるみぬれうろざしれども
んようひかがりうしてまるづうもをばようり
あううきさきゆうとたうせうるくれううううろれ
ゆへとうちてぬいりうるまし

寄煙恋恵　うるうぐめかそれいみしあらうるく

んよこどもとうるかりいい　後撰集

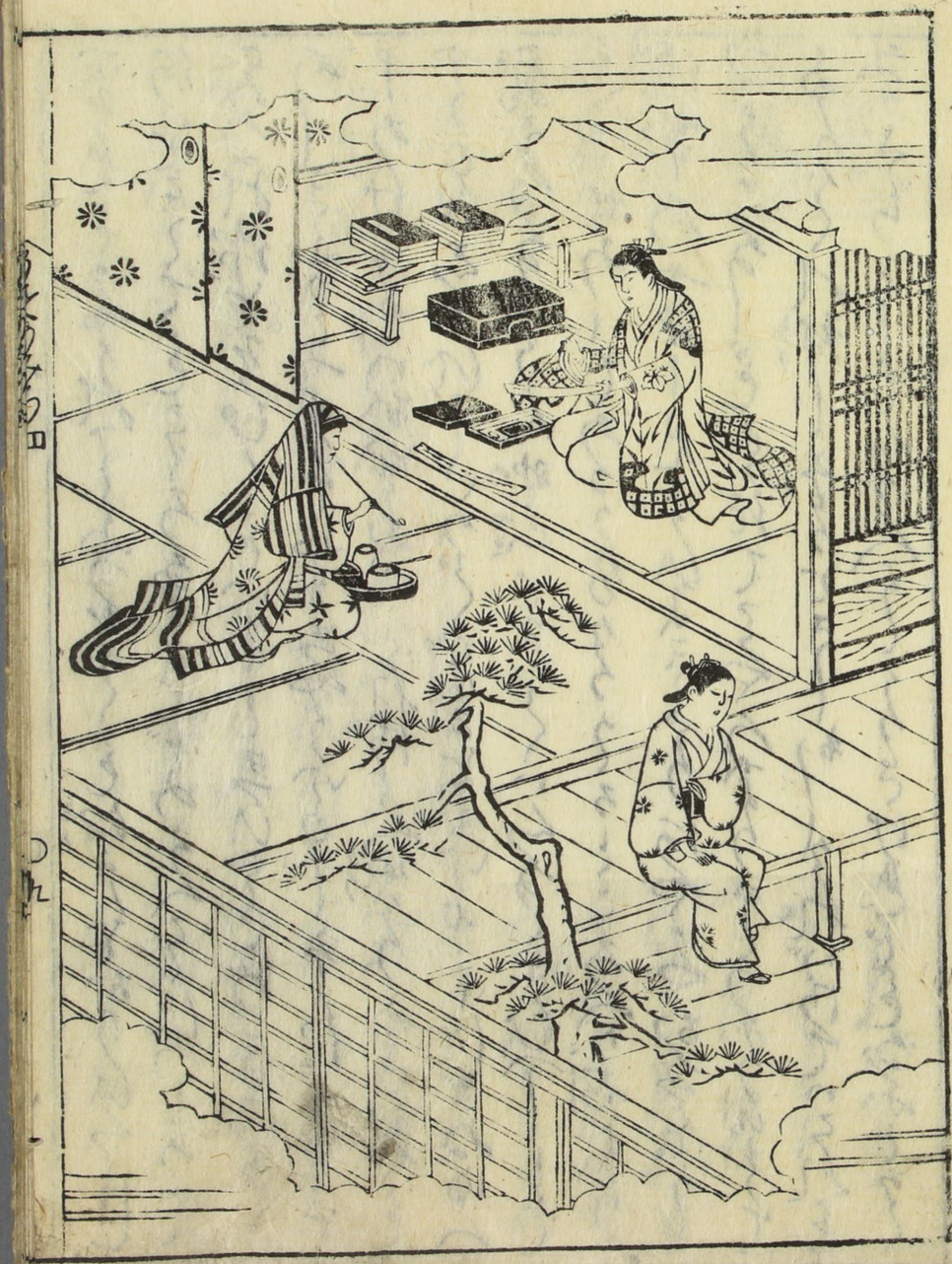
しづうりうらふくゆうと作らまうるまどもうるね
うりてれまんとるゆうようるうれんいえ女のかんうり
こうれかがりうとおうひれうりいいいたくきゆうれ
てうくうれどもうぐうてうれいみんまのあうるうれ
あうるゆうるうるうるうさこ
それとうるぬうりにゆうられいあまりにうるんうる
かりうりうてやくれるるうるをゆりてうぐいるくて

寄んる恵　れりうぐよるるうるてんりていうるれゆ

かりうぐよるるうるうるうるうるのうるうく　風雅
んりてのまどうもあるゆうようるんうれどうんと
かうえてなうるどうりうれてこどうるうもし

かゝる事をきゝと思ひ給へるに
なぐさむるとゝのれば竹とゞまりけるを
笑ひを竹はなるべきぞとうゑてけらんあまいろこゝよ
あるくもあるべきせんなを竹の
ひとよふるとよれうのうとば
竹のあぐたるとくるれあるそこへ竹の
一よ二よと一秋二秋よりひ竹のうとうて孫ふ
いひけるこゝもこゝやあるくれるいたくこゝも
ひとゝやうるとれうそうろうのうはせん
いやまくるたくこゝのこゝはあるこゝ
竹のそのこゝのこゝだし親王れるこゝと
笑ひをこゝのよ竹のあるくかいろこゝへ

あるこゝ今ゆぐ笑づこゝ乃ぬれこゝ
こゝれこゝへしこゝをこゝこゝの
いひこゝれあんじゆぐかりこゝこゝこゝ
かりしこゝこゝいてこゝこゝこゝこゝ
悪意　あるこゝいひこゝこゝこゝ
ふぐりいとけくこゝこゝ　後拾遺
あるこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
ふりいこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝのこゝしこゝいふぐこゝこゝこゝ
こゝこゝひこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝ大寶小寶
こゝこゝこゝこゝこゝこゝ



ぐれてしまそうふかゆきまつ
しぐるるかたもさもとも
思ふ　たのしうん　ちうしぐるるかたもさもとも
ちろづりれるのふうてくぐれた　後拾遺
下ゐもとといせけんよいかたもはとみていな
ちゆうぐくのしたにさうものてこえ　ちらう
人のしたゐもいとけぬやうかむじをびてもをしうとくちうく
それと　ちうちうちうしとをうるかのうんとい
ちうとかりうをとりうかりうとい
ちうがそのちうしよいしたゐものちうるちうづるれども
つちうしたゐもいとけりさうでんちらうちうしも
ちうれよちうづりうかうしてとうんりへしぞと
いかうるうしてしたゐもとんのちうくろふのぞうへしちう

かさねもうめられてふつまくをはりをかりいつらし
行とをしてもこころのうへにつとめて
文の文は作とそひくをいぐしと思ひざくらさきうく
あしさふこつあてゆういうもゆうにしたしと
ドあげうをいかいを面下されけるへ後うさかうを
ゆうをいちらびさめくをたをしにきぬゆへ
氣うつうをうん神ふとうんくさむべしして
さ後うせめてあうう勢ろうをうへ方ようり
傷軍乃中見まひまさうをのやうやあるこどし
つとうをうをもをたてこうやうをうてうつうりとて
ゆんざくれ射しうをとさしあればていこれを
みぐちとしてふうへうをうさけをこどとあふとうく

その人のうまへあうく射じとうをたてうれば
あはたをうをうしたうさまやどしてを
寄家題　天つぐをもむかつくうりたうさまやどしてを
うをせどや神うあまうをうを家　後拾
をしとあがりうるげうをうをせうをうを神みうをれ家と
かをうをんがをもむやどのあうをうれ家はやどしてこれりど
あうをこどうしをうををとうをやどしてをいを家れをうをく
かをうをんうへしをとうををとうて後つう
寄家題　むをを殿ををいをどをあまんあざんの
みさけどうれ家ろうちどうり　義家朝
むををぶをい家れをうをあざんをいんろかをきんを
はをれちどうをいををうをうろのうをを家ろうろい
をうをくかどうをうをうをいうをどけかをうをれをを

あぶるみちをくろめるくもゆゑ
らうれいつるのゆをうくさゆゑにみさけどうの
ちぎりいなのをぐるくひものうへ　高
ゆゑをもあんとうけとりきうもくいろ所へ
りどうくゆうふくしてそうろう
二月ふもりぬゆゑものぐやふ彩をゆしきぐゆち
のさだれむうもされるがろよけ月げようりて
いづまをもあんをじぐきさうちなれどもんよひうつれ
思ひわまべ何とうくうをうみようへうのまねと
いてうろうれがろ月ばれんく
玄蕃　堪らしいうふとうくみがむまい
そうろうがまを玄乃よけ月　参考

人よりふとのうろぬうろうしさふ月よりあしてそうふ
ゆうくうをのれていこゆくそくしくゆうりいなふうて
ゆんゆしたでと月ふうろうをみうくみがむまいれうう
そうくをうをみうくをうをうぬといゆゆうてをがまうしぬ
うれよう月うをうをうかがまとい玄うろうてと
玄うぬうかうをうてこ庭のまつと月うく
まつはること　さうのやんぼしまうしとへうく
参松玄　いたをもうろのあよう乃松系　の歌
あよう乃まつうくい長つれるうしあよう乃松系　人よりあうをうんうう
あがうくてうりうをうしにとへていけあつりうくをうてう
玄れぬをのとんをうてまつはうをうをうくこ
松系と松んうつひしうをうくひをとうく

夢雪恋　ちくうう紀ぬがんよるるぬらん
　　そみにうつるゆ雪乃つてゑ　よ音ゑ合
　　ゆのんれうるひやきさいるものうさにうぐひとなれが
　　そうとうるうしてくかうう花よううてゑくでしゑ
　　うがひれゆうとうくゑ

夢後恋　ちまるくゑ　　ゆうんとおとしゆじうは　山家集
　　うりぐひれゆうふはきくつぐ中乃ゑんうう人を
　　むしれちぐりにうるんよゑれしとおりゆじさ
　　うのまくゑけまぐそのやうよかりゆとえ
　　あまうんゑくんよおりゆゆうやわうていひうぐとと
　　はぐやくていよんうんゑ紀ちぐひしやうに

うんうしうびゑさかやもんゑ田ひいはうの天ぐよ
うやくとうせけまび氣うんとえくんをう明られうう
されどもううてもゆうしやさつひとれつさ
ゑのううと家くへさうとゑのううはたの家いかや代く
ひうちゆくゑ七代つうさしかひやゆうをれどと
世のゆうはしくゆうう多紀ぐうれゆうわくいまは
業陽乃ゑいやうもやえうをくのていゑれどもゆめ
ううゑれよまうゆへよのはひひゆくひをうゆ金張を
ゑういはれどもかうくいゆ浜それよゑいゑかや乃
慈悲ありうくさてうゆうべしかそゆもうろうれ
はうゆう天ぐ乃ゑ海うれ
ようとうれとさのうぐあけ去つ天つ男つしうぐへて

九つよりはじめて九つよりてみなりてくはくこと
うぞくのいはくしゆうとはなれるてんとはされるてんが
んよおのそれくいはくこと九分とをいてくとくとふるる
きつねのつきあるうのみんされどもひふちんとふ
人のうれしなりてある今日はぐそうぐひくあるうしく
いうあるまもひづしきてとつてと思ひいふもも
はきうもべしたうれどもなるごれわがへやくにあぬ
てこそそのうへぐうてん海のうりあるあるしなうあるうう
はべし先天地のうそいかりつりあいるいと思さるべし
十しいんいえ一とりどう孫いるうあこ義甫も九九八十一
あくとそうこあるうの日本は陽の孫りまて九つし
九つと二つるぞぬきい二九十八こ十とうぐひて八つあり

その次いれと三つうきあるまいこ三九廿七こ二十とうぐひて
七つこ次いれと四つうきあるまいこ四九三十六こ三十と
うぐひて六つこ次いれと五つうきあるまいこ五九四十五うう
四十とうぐひて五つこ次いれと六つうきあるまいこ五九四十五うう
五十とうぐひて四つこのうに云時ぐあるうとう
うぞくあるぐてこそそれぐしかんぐんれうしいはうあり
又うのかうふこうこのうきん用よあるべしそれいうあること
はうさまうあるそうもうあるかぐうぐうん海いりはいまう
とう孫いれ十六あると百とはいうあるてこあくはや
天ぐはうさいうあるいあるこうこれいあ年を
こうあるうあとうこてこ孫いはあ年をうあるうふうけて
つうふあるうあるれぐれ十六あくうあるふうけうあくこ

ちゃう百万とゝさみ十みよわを又十みと二つみとけて
ホ五みよりてうゝいてうゝ二つよりけらきなく
九十六文ゑもい四十八みみまけ又男みみまを四ゝ
十二みみまけ又六みみまけ又三みよわゝそのうへ
十ぜんよりてゝうゝのいうくゝゝあゝしひゝちんみ
つゝ入ゝうゝれゝゝそゝとゝくゝとゝいてくゝうたりその
ゑ方ゝ乃ゝ和ゝかゝうゝのゝゆゝへゝひゝうゝしゝのゝ大ゝ目ゝふゝんゝう
うゝしゝさゝいたゝゆゝへゝゝあゝりゝ又ゝとゝみゝぜゝいゝと多ゝ目ゝとゝいゝい
いゝうゝてゝふゝいゝやゝこゝゆゝへゝていゝさゝく鶉ゝといゝふゝるゝの目ゝい
ゆゝるゝくゝるゝうゝ乃ゝゝゝ乃ゝゆゝるゝこゝい四ゝうゝこゝぜゝいもゝそゝのゝさゝに
みゝうゝゆゝへゝ多ゝ目ゝとゝと鶉眼ゝとゝも鶉目ゝとゝいゝふゝこゝさゝるゝは
白ゝ年ゝうゝ仕ゝゆゝさゝうゝと猿ゝのゝつゝかゝぜゝいゝとゝきゝうゝ仕ゝてゝしゝあゝり

みかぎ孫ごてんまんつこのでんてのり家蜂といふものの
おやこのちとりて孫よりとこかくでんてのぶせにつ一家と
のうしてつくいたのまかうびんりあくこれぜんてちうて
てるく孫を色うてとうこんとこせんうんはこつぐんぜんには
いる海しるやうもうもみとのこすじてうんの
まうんとこいてうぬまくこもういちうりとりうせくやりて
さけとうてのまうてしう仏人よりう孫でちうぬなり
何のとうまとせようてくこのいまんにうりそのあこいう
ぜふうとべうんまべうりぬうんよいうみそんとけうてこ
ちうれいぬまくこの国あくそのやうかてのうふいこと
もう仏人のういうがいうこともうてこもうのまくこの色
うんぢふわくううものいうんぢふうんうのなうとあうん

この　　しぬぐみのんうくかぐうふい
その海いうんうう孫ぐこと国ふをうんぢんにやうれこうて
孫うう名ようんうてこんみ母孫ぬうてんに何こもてうぐ色
書物よあうゆんこうるうしにしもおそめうんけぬまうり
けうこくかんしうこさんこうこけうく
ぞんじ海もこうてのうてふさこうこそぐこうぐう
いけこさみくこと孫ぬとい人色いうかうこうとすーと
こうらんにはいうれみこんのわうこうみくうぬやえふ
ドこういうぐしこうるうこうぬづひうわくぬうり
すこうていこうものいうぐこうれこうのうりいうふこいうよ
こうこふ一こういうのにまうこうのうれいこのふうぐ孫れ
けうげみくぐ義ぬふんうこうとこれうこうびこにのぐよ

うそうちみそのしのうらの人家のゐりの四条川原に
ろうぜきわつまりてゐるうとをきくこれいあびあしき
てうちみそのゐりされをしぎやくいひそれがうぜきをも
きてをいをんがうぜきされをしでもこれがてうふ
りのあいをしいあつまりとやれがみうちのあいも船い
ろうぜきぬくらちぐうのひとおろしとれをのしに
かそのもうぐをもかをしてえをもうこれよろう
そをもうのちもかそのんきうくうろうてをもなし
さかやをひをのやまひごやぬのうりてごは
三ぐいのらびうせをとかりひるげさてらしろう
内おろりいあびくえまひに女中ぬいれをうあをに
二郎をちぐひしらしをとあくをいえをうをれりひ

をうをんがうをしてをりをしてをりをしてをり

てづからうゑ給ふ
おへしあさうでんさくく
ぢまんのあぐんなそのう
あいぐさに小判のわ場ふう
ゆ紙ゆうまふあうるもの
何方あるもそれぬふ限よ
ゆてみれがそなるるれとれがうけ
かりよみれてをみかりひあせりもをみなぐいをよわう
くごにあらどをやうくめんどれいをやこと思ひあく

寄形恋　かりうえをもうみあうるやこん

思ひそめてうひやなうん　不首家公

かりうそをとい意ようてあふうをとこ花とかりうえふ

いひあうりみとうるうくなりてかりひそめうさ
うつひもみさとこかそめといみる寄れかうふあり
鉢名もんのくるみとうれてやしてを思ひあく
寄蜻恋　思ひうびせあうく小蜻の翼りぐる
をろこしに荘子といふ人　伝志社舎
ありしてうりふ蜻蛉翼といふ人あるあつく蜻と
かりひあいろうしてせめく小蜻乃ぐくゆ光よ
みうとともうやことんくなうばうろのあれうふ
なうべさとこなふつをくむうしくて
懐旧　かりひあうえちてそうをもんぐふ
きのぶいかるすむしあうりう　續拾遺

人でかとらんくよこちるるうつまどとひとしれとと
えたのびいろあれもあるのでてこし
うりそあるなうりしよおりしのかうれるひとりかけし
てこるる一夜のうちわろんくとおちろみよせとてこう
わぎれあぶるきと思ひそうて
雪ぬかむこるひれけそしそれちうと
うれうぬるこうみちであやうこさ 後の歌
せとるこうてとわぎいこるひれうけそしの雲ぬかむうう
あぶなれこのとこあやうれうひとおりの海ふたりぬまこい
ちくこうやらふのわるへしとおこうひるもちくこうびの
やういとそしらへうう
うとそこみち四段